

昭和61年度  
シグマ特別専門委員会（シグマ研究委員会）議事録

日時 昭和61年6月26日（木） 11:00~17:20  
場所 日本原子力研究所東京本部 第3会議室  
出席者 原田吉之助（主査，日本エネ）  
飯島俊吾（NAIG），五十嵐信一（原研），池上栄胤（阪大），  
梅沢弘一（原研），大竹 巖（ISL），岡下 宏（原研），  
小幡行雄（原研），河原崎雄紀（原研），神田幸則（九大），  
菊池康之（原研），北沢日出男（東工大），木村逸郎（京大炉），  
鹿園直基（原研），菅原 彬（MAPI），椋山一典（東北大），  
瑞慶覧篤（日立，竹田練三代理），関 泰（原研），  
関 雄次（FBEC），中沢正治（東大原施），中嶋龍三（法大）  
長谷川明（原研），久武和夫（実践女大），松浦祥次郎（原研），  
松延廣幸（住友原工），村田 徹（NAIG），  
山室信弘（NAIG），若林利男（動燃）  
オブザーバ：浅見哲夫（原研），高橋亮人（阪大），  
橋爪 朗（理研），中川庸雄（原研）  
欠席者：田村 務（原研），宮原 昭（名大）

配布資料

1. 60年度，61年度運営委員会，本委員会議題
2. シグマ特別専門委員会内規改正（案）
3. 61年度シグマ特別専門委員会委員（案）
4. JENDL-3以降の計画検討小委報告案
5. IAEA Advisory Group Meeting of PROPERTIES OF NEUTRON SOURCES  
(Leningrad, 9-13 June 1986) 資料
6. International Conference on FAST NEUTRON PHYSICS (Dubrovnik,  
26-31 May 1986) 資料
7. 炉定数専門部会資料

8. 核データ専門部会資料
9. 核構造・崩壊データ専門部会資料
10. 1986年核データ研究会資料
11. 1988年核データ国際会議資料

## 議事

### 1. 事務局報告

#### (1) 運営委員会報告

五十嵐氏から資料1により運営委員会(60年度第1回～61年度第2回)の概要について報告があった。

#### (2) 諮問・調整委員会報告

楢山氏から資料2を用いて、60・61年度の諮問・調整委員会について次のような報告があった。60年度の諮問事項は、JENDL-3以後の問題、国内の活動強化についてであって、これらについては昨年この委員会で報告をした。今年度の諮問事項はシグマ特別専門委員会の内規について、委員の選出および研究委員会規程との整合を検討することであった。5月23日に会合を開き、内規について検討を行い、内規の骨子は簡単にして細かいことは実施要綱とすることで資料2の参考資料1のようにまとめた。その後、再検討して資料2の案を作成した。これに対して討議が行われ、資料2の案の提案の手続き上の是非およびシグマ特別専門委員会(本委員会)とシグマ研究委員会との関係等について議論が行われたが、資料2の案は一部修正のうえ承認された。

### 2. 学会関係報告

村田氏から、原子力学会の核データに関連する事項について報告があり、また楢山氏から補足の説明があった。

### 3. 委員会人事

浅見氏から、61年度委員の承認手続きがこれまでの内規通りに行えなかった事情の説明とともに61年度委員の運営委員会案(資料3)が提出され、了承された。

#### 4. 主査の改選

事務局から議題1(2)で承認されたシグマ特別専門委員会の内規にもとずいて主査の選出を行うことの説明とともに選挙が成立していることの報告があった。また、投票に先立って、諮問・調整委員会委員が立合人に選出された。

投票結果が立合人を代表して楢山氏から発表があり、鹿園氏22票、白票1票で、鹿園氏が61・62年度の主査に選出された。

鹿園氏から主査としての挨拶とともに、61年度の運営委員会および諮問・調整委員会には60年度の委員が1年間継続して欲しいとの提案があり了承された。

#### 5. 大学等の核データ活動

##### (1) 中性子核データ関係

楢山氏から60年度の核融合関係活動のハイライトを中心に次のような報告があった。昨年のSanta Feの国際会議では日本から数多くの発表があったが、これは科研費による活動が実を結んだ結果である。また、阪大のOKTAVIANでの研究が原子力学会の特賞を受けたほか、原子力学会での発表も120件に達した。

木村氏からは、科研費のエネルギー特別研究のThサイクル関係について報告があった。

##### (2) 核データ小委員会

池上氏から、北大で行っている陽子入射の核反応データの格納状況について報告があった。

##### (3) 理研の核データ活動

橋爪氏から、医学利用荷電粒子核反応データの収集の状況、ならびに荷電粒子核反応断面積の収集と評価についての国際ネットワークへの参加について報告があった。

#### 6. 特別講演

##### (1) JENDL-3以降の核データ活動について

中沢氏から、資料4に基づいてJENDL-3以降の計画検討小委員会での討議状況について報告が行われた。この小委員会は若手の考え方をまとめることで発足し、これまでに6回会合を開いて、短期的および

び長期的の両面から計画の検討を行ったこと、また、関連分野の核データの要望の動向、核データ活動の活性化の方策、具体的活動計画の提案等について詳しい説明があった。これに対して質疑応答、議論が行われた。

(2) PROPERTIES OF NEUTRON SOURCES に関する I A E A 諮問家グループ会議の出席報告

木村氏から、6月9日～13日にソ連の Leningrad で行われた標記の会議について、資料5のプログラムを用いて報告が行われた。また、会議後に訪問した Gatchina Institute of Physics (Leningrad 郊外) および Joint Institute for Nuclear Research (Dubna) の施設の状況についても説明があった。

(3) FAST NEUTRON PHYSICS に関する国際会議の出席報告

高橋氏から、5月26日～31日にユーゴスラビアの Dubrovnik で行われた標記の会議について、資料6とOHPを用いて報告があった。とくに、会議のトピックスを中心にして詳しい解説が行われた。

7. シグマ研究委員会60年度活動報告および61年度活動計画

(1) 炉定数専門部会

長谷川氏から、資料7によりJENDL積分評価WGおよび遮蔽定数サブWGの活動状況と計画について報告があった。

(2) 核データ専門部会

村田氏に代って飯島氏から、資料8を用いて核データ専門部会の組織の61年度の変更点、各WGの60年度の作業状況と61年度の計画について報告があった。

(3) 核構造・崩壊データ専門部会

中嶋氏から、資料9を用いて崩壊熱評価WG、核構造データWG、核種生成量評価WGの60年度の活動状況および61年度の計画について報告があった。とくに、JNDC Decay Data File の改訂によって崩壊熱計算の精度が著しく改善されたことの説明があった。

8. 核データ研究会準備状況報告

五十嵐氏から、資料10により核データ研究会の準備状況について報告があった。本年度の会期を11月26日、27日にしたこと、プ

プログラム案の骨子、アジア地域諸国への連絡状況等について説明があった。

9. 1988年核データ国際会議準備状況報告

五十嵐氏から、資料11を用いて、核データ国際会議は原研主催で行うことになったこと、国内組織委員会のプログラム調整部会および企画運営部会で検討中の事項の概要等について報告があった。その中で、招待講演のテーマ、講演候補者については7月4日のプログラム調整部会で検討すること、国際プログラム委員会委員長には更田氏（原研）が予定されていること、準備の細かい点については原研核データセンターを中心にして検討を進めていること等の説明があった。

これに対して、活発な質疑応答・意見交換が行われた。